

令和2年度 磐田市立竜洋中学校 学校評価書

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

| 重点 | 目標・取組 | 評価指標 | R2 到達度 | 自己 評価 | 考察 | 学校関係者評価委員から |
|------------------------|--|---|-----------|----------|---|---|
| 安心安全な学校 | 生徒一人ひとりにとって安心して学ぶことができる人的、物的環境を整える。 | 「学校生活を楽しんでいる」と答える生徒90%以上 | 90% | A | コロナ禍もあり、学校生活の意義を再確認した生徒も多いようである。目標は達成できているが、楽しくないと感じている10%の生徒が、今まで以上に安心安全な学校生活を送ることができるよう個々の生徒の支援を図っていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、職員のいろいろな工夫によって学校生活が安心して過ごせていると感じる。 ・悩みなども以前より多様化し、価値観もバラバラの中、対応が大変なところ、アンケートでこの様な数字が出ていると言うことは、職員の意識の高さと細かい気遣いを感じる。今後も生徒が少しでも相談してみようかと思えるよう、生徒のそばにいて、話しかけやすい雰囲気で見守って頂きたい。 ・休校中の職員による教室整備など生徒が気持ちよく学校へ行ける環境整備をしている様子など、HPが多く更新されており、学校の様子が知ることができて良い。 ・行事など、生徒が自主的に活動する姿をよく見かけた。雰囲気の良いのが伝わった。 ・生徒と職員のコミュニケーションをさらに推進して欲しい。 |
| | | 「先生は、あなたのことを理解してくれていますか」と答える生徒90%以上 | 89% | B | 「生活の悩みアンケート」を隔月で実施し、気になる記述があれば、すぐに職員が対応している。今年度はコロナ禍の影響で、不安を訴える生徒も昨年度より多く見られたが、その都度対応する事ができた。 | |
| | | 「悩み事を相談できる先生や友達がいますか」と答える生徒90%以上 | 90% | A | 上記のアンケートもあり、教師が相談に乗ってくれるという思いをもっている生徒も多く、その結果が現れていると思われる。今後も、生徒や保護者のアンケートを元に、個への支援を進めていきたい。 | |
| 確かな学力の育成 | 授業改善を常に意識し、生徒が活動しやすい授業構想を練り、生徒にとって「わかる授業」を実践する。 | 「授業がわかる」と答える生徒90%以上 | 81% | B | 「Google Classroom」等を活用し、コロナ休校中の学習支援を行った。また、来年度の学習指導要領改訂に向け、「主体的な学び」を意識した授業改善に取り組むことができている。しかし、個の学力差の広がりや、学年が上がるにつれて大きくなっているため、さらに授業改善を図りながら進めていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・来年度からのGIGAスクール、ICTなどを始めとしたパソコン、通信、ネットワーク構想がこれから進んでいくようだが、だからこそ生身の人と人との対話やふれあいをより大切にし、生徒の情緒の安定を図って欲しい。 ・休校があった中、学力を向上させることについては大変であったと思います。 ・勉強とは別に自主性を育て、勉強が面白いと思わせる教育がしてはどうか。 |
| | 授業の方法を改善し、自分で調べたり、仲間とともに考えたりするなどの活動を取り入れる。 | 「進んで先生に聞いたり自分で調べたりして学習している」と答える生徒80%以上 | 75% | B | 目標値に対して、低い到達度である。新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実践に向け、さらなる研究を進めていく必要がある。 | |
| 主体的に考え、ともに学び、実行する生徒の育成 | 学校行事や委員会活動、部活動など、生徒が主体的に取り組むと共に、個を育て一人一人の向上につなげる。 | 「生徒会や学級の係活動・部活動に積極的に取り組んでいますか」と答える生徒90%以上 | 91% | A | 熱心に生徒会活動、部活動に取り組んでいる姿が見受けられる。生徒会においても、自主的な活動が見られるようになってきているので、さらに意識が高揚するよう支えていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や生徒会活動も順調にやっけていくことが困難状況であるかと思うが、その中で、体育祭や合唱祭を見事に成功させていて素晴らしいと思います。 ・生徒と先生の絆を感じられたのが非常に嬉しく思えました。 ・生徒が部活動、勉強で目標を持ち、学校生活を送ることは非行防止にもつながる。達成率も良いので、今後も頑張りたい。 |
| | | 「互いにルールを守り、協力する雰囲気がある」と答える生徒90%以上 | 84% | B | 目標数値を下回っている。特に1年生は、良い意味での小学校と中学校の違いを強く感じる年度当初が休校となり、中学生としての意識(自覚)に欠ける言動が見られる。生徒同士で注意し合えるような厳しくも、温かい人間関係づくりを進めていきたい。 | |
| 小中一貫教育の推進 | 地球の様々な課題を自分ごととしてとらえ、足下から行動するとともに、周りの人々とのプラスの関わり合いを持つことで、自己存在感、自己有用感を高める。 | 「中学生として小学生や幼稚園児にやさしくできた」と答える生徒100% | — | — | コロナ禍の影響で学府大交流会(6月)グループ交流会(11月)ともに実施できなかったため、アンケートもおこなわなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・周りをよく見ること、社会の中の一員だという意識を子どもの頃から持つことは大切である。言葉かけ、書面上でも交流はできると思います。 |

学校関係者評価を受けてのまとめ

・生徒の評価が多くの項目で昨年とほぼ同じ評価である。新しい生活様式の中できる範囲で、多くの活動を取り入れ「魅力的な課題設定」を目指した結果、「学校が楽しい」「授業がわかる」「進んで学習する」などの評価が高くなったと考えられる。学校生活のすべての基盤が、授業であることを再認識し、今後も授業づくりに取り組んでいきたい。

・生徒、保護者の評価に加え、学校関係者評価からも「安心安全な学校」の経営に関しては、予想以上に高い評価をいただいた。コロナ禍のため学府内での交流会など行えなかった。その分、校内において感染予防をして上で、できるだけ多くの行事を行ってきたことを学校運営協議会委員の方々からも高い評価を頂いた。

・小中一貫教育の推進、コミュニティスクールの推進については、コロナ禍のためあまりできなかった。学校公開もできなかったため、HPなどで学校の様子を伝えられるようできるだけ更新(週2回程度)を行った。その為「実際に学校に足を運ぶ回数」は減ったが、学校の様子も伝わりよかった。」との評価を頂いた。